

## 事業名：蒼樹大学

生涯学習課 生涯学習係

政策	05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実								
施策	02 生涯学習の充実								
基本事業	03 生涯学習機会の充実								
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

<b>事務事業の目的と成果</b>	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
満65歳以上の学習意欲のある市民	
手段（事務事業の内容、やり方）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年4月に100名の定員で募集、就学年限2年間・5月～3月まで毎月1～2回学習会を開催。午前は現代的課題や歴史等をテーマに講師を招き全体で学ぶ教養講座、午後は各自選択別に専攻講座（6講座）を受講。その他研修旅行・新年会・地域活動などの特別行事を開催、年度末に記録文集を発行・会場 野幌公民館 年会費1人3,200円</li> </ul>	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者ひとり一人が自立と連帯の精神に満ちた豊かで活力のある生活の維持を図るとともに、異世代間の交流、仲間づくりを促進し、習得した知識や技術経験を活かした地域社会への参画を促進する。</li> </ul>	

<b>指標・事業費の推移</b>						
	区分	単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	65歳以上の市民の数	人	27,827	28,949	30,240	30,240
対象指標2						
活動指標1	講座開催数	回	61	61	61	62
活動指標2						
成果指標1	学生数	人	139	137	165	137
成果指標2	学習の成果を地域で実践した学生の割合	%	84	86	85	—
事業費(A)		千円	590	641	657	665
正職員人件費(B)		千円	2,007	2,004	1,953	1,956
総事業費(A+B)		千円	2,597	2,645	2,610	2,621

	<b>事業内容（主なもの）</b>	<b>費用内訳（主なもの）</b>
25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者学級である蒼樹大学を開催する。</li> <li>・5～3月間に毎月1、2回学習会を開催。午前は現代的課題や歴史等を全体で学ぶ教養講座、午後は選択制の専攻講座を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒼樹大学講師謝礼 554千円</li> <li>・文集「蒼樹」印刷製本費 81千円</li> </ul>

事業を取り巻く環境変化
事業開始背景
事業を取り巻く環境変化

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由 根拠
	・高齢人口の増加により、高齢者の中にも健康で活躍する事のできる人材は多い。豊富な知識と経験をもった高齢者が積極的に地域社会に参加・貢献して行くための学習・交流の場の提供になっており妥当である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由 根拠
	・幅広い分野の学習ニーズに対応しており、定例学習会や選択幅の広い専攻講座など、多様な学習機会を提供している。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由 根拠
	・高齢者への学習機会が提供され、様々な形の仲間づくりやコミュニケーションが図られている。 ・地域への参加を目的としている班活動は、より積極的な活動になってきており、在学生の主体性の向上につながっている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠
	・地域との交流活動を自ら企画・実施する学習である班活動の実践は、地域社会へ学習の成果を還元するひとつの形となっている。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
ある なし	理由 根拠
	・必要最低限の費用の中で、安価な講師に依頼するなど工夫をしてきている。